［認知症対応型共同生活介護用］

１． 評価結果概要表

作成日　平成　２０年　７月　４日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001075		
法人名	株式会社 Ｅライフ恵愛		
事業所名	グループホーム恵の森		
所在地	小樽市長橋５丁目１７番５号 （電　話）0134-33-7300		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目３　北1条ビル３階		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】（　２０年４月１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成１８年　３月　３０日	
ユニット数	２ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17 人	常勤 16人，　非常勤　1人，　常勤換算13.8人

（２）建物概要

建物構造	軽量鉄骨　造り
	２階建ての　１～２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	３５，０００円	その他の経費(月額)	水道光熱費　25,000　円 暖房費（11～4月）5,000円	
敷　金	㊒（　70,000　円）・　無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　　円） ㊔	有りの場合 償却の有無	有　／　無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当た　1,300　円			

（４）利用者の概要（　6月　1日現在　）

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護１	5	名	要介護２	8	名
要介護３	3	名	要介護４	1	名
要介護５	1	名	要支援２	0	名
年齢	平均　80.1 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	松島内科、石橋病院、三ッ山病院、宮の森病院、長橋千葉歯科、石井歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム恵の森は、法人代表者が前勤務先における介護サービス施設事業担当責任者としての経験を活かし、福祉の想いを込めて開設したホームである。施設は小樽市郊外住宅地の高台に位置し、眺望に優れ、建物構造も利用者の暮らしやすさに配慮した設計で、明るくゆったりした空間が提供されている。介護経験を有する管理者や介護支援専門員を中心として、全職員が利用者のケアサービスに熱心に取り組んでおり、家族や利用者からの信頼も厚く、優れたホームの一つである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	今回は初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価を全職員に説明し、意見を集約しながら管理者と法人代表者が取りまとめて作成している。自己評価結果については、ミーティングなどで話し合い、改善必要事項については、その具体的方策を検討中である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は民生委員や町内会代表も含んだメンバーで、開催日をボランティアによる三味線演奏会に合わせるなど、メンバーが参加しやすい仕組みを工夫している。会議で検討された事項は職員にも伝えられ、意見や要望などを全員で検討しながらホーム運営に反映させるよう努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	現在までに家族からの苦情は無いが、要望や意見は法人代表者と管理者が現状確認を行ない、全職員と検討しながら改善に向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームは、施設建設時に建て前の餅まきなど地域の理解を得る努力をしている。開設後も町内会加入は勿論、老人会や地域の祭りなど行事への参加、冬季における広範囲の除雪実施などで地域の理解も深まり、周辺住民が立ち寄ってくれるなど交流が進んでいる。

2. 評 価 結 果 (詳細)

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中で、地域と密着した施設であることを明示し、これに基づいて地域との係わりを大事にしながらケアサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや会議、日常の業務において職員全員が理念を共有し、意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設完成前から、建て前の餅まきなど地域の理解を得るように努力している。開設後も町内会加入、老人会との付き合い、夏祭りなどの行事参加で、周辺住民も立ち寄ってくれるなど交流が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価の意義と必要性を職員全員に説明し、自己評価作成に際しても、職員の意見を聞きながら作成している。要改善事項についてはミーティングなどで検討している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、ホーム開設直後の18年6月から民生委員などをメンバーとして開催し、ホームの三味線演奏会に併せて実施するなど、参加しやすい工夫も行なっている。会議の結果について、職員に報告され、参加者の意見をサービスの向上に活かすよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当部署には頻繁に訪れ、運営上の不明な点など各種相談やホーム状況報告など、情報交換を積極的に行なっている。	○	行政との連携は行なわれているが、新任の担当者がホーム未訪問のため、現地訪問を要請し、ホームを実際に体験してもらうことを期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に利用者の暮らしぶりなどを説明しているが、写真同封の利用者一人ひとりのお便りも郵送している。さらに、不定期であるが恵の森新聞（ホーム便り）を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今まで特に苦情はないが、家族からの要望や意見については現状確認の上、全職員に伝えてホーム運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設後の期間が短いため、退職者は少ないが、その際には職員との信頼関係を失わないよう利用者への伝え方を工夫し、不安などの影響を与えないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質的向上のため、内部研修以外に外部研修にも取り組んでおり、セミナーの内容に応じて随時参加している。さらに、関連資格取得の費用もホームが半額負担するなど、職員の能力開発を積極的に進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会などを通して、ほかのホームとの情報交換を行なっている。また、ホームの相互訪問を実施するなど、ほかの業者との交流によってレベルアップを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居希望の際には、家族や利用者と面談しているが、ホームにも見学に来てもらっている。さらに、一緒にお茶や昼食をともにするなど出来るだけホームに馴染めるよう配慮している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの個性や意思、尊厳を大事にし、ホームの仕事や楽しみごとを職員と利用者が一緒に行ないながら、ともに支え合う関係を尊重している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集や居室での直接話し合い、さらには日常の行動や表情に注意している。その結果を職員間で検討しながら利用者の思いや意向を把握するようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に際しては、家族に要望や意見も聞き、医療機関とも相談しながら、ユニット会議で情報を共有し合い職員全員で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、３ヵ月毎の定期見直しを実施しているが、利用者の状態変化に応じて家族や医療機関と相談しながら随時見直しを行なっている。また、介護計画と照合する記録方式を進め、計画の見直しに反映させている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院、理美容、花見、食事会などにホームの車両を利用している。また、ホーム内でクリスマス会や敬老会を開催し、地域の人を招待してともに楽しむなど、多様な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関による定期的な往診体制のほか、利用者の希望するかかりつけ医の受診も自由である。かかりつけの医療機関へは、職員が同行しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム開設後の期間が短いため該当者は居ないが、入居時には家族にホーム側の方針を説明している。しかし、具体的対応策や職員の共有については、まだ十分とは言えない。	○	ホームとして、利用者の重度化や終末期における方針を文章化して明確にし、医療機関との連携体制を強化しながら、職員全員で共有することを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への言葉かけやケアサービス時に、誇りを損ねることの無いよう十分に配慮しており、介護計画書など各種記録も慎重に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは利用者本位を基本としてゆったりとした対応に心がけている。 職員は自分の都合に合わせるのでは無く、利用者一人ひとりの希望や想いにできるだけ添えるよう配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは職員と利用者が一緒になって進めている。食事中は職員が同じテーブルで同じ食事をとり、お互いに話をしながら楽しく食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、主として午後に実施しているが、利用者の希望によって午前や夕食後の入浴も可能である。入浴を好まない利用者には話しかけをしながら、できるだけ入浴できるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除や食事手伝い、畑や花壇の手入れなどの役割を持ち、各種ゲームやお楽しみプログラムによる手芸やカラオケ、ホーム喫茶の開催など様々な楽しみごとや気晴らしが実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺を散歩したり、敷地内のベンチで休みながら周辺の自然を楽しんでいる。また、車両を利用して買物、外食、花見、日帰り温泉などの外出を支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠が無く、出入り自由である。ユニットのドア付近は、内部から見通しが良く、さらにドアチャイムが取り付けてあるため、利用者の出入りは容易に把握可能である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは消防署の協力を得て、年２回の避難訓練（消防訓練）を実施している。地域と一体となった訓練は今後の課題となっている。	○	避難訓練は実施されているが、今後は、夜間想定訓練と周辺住民と連携した地域一体的な訓練の実施を期待したい。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量は毎日記録され、食事内容は毎日のカロリー計算実施と栄養バランスに配慮されたメニューが提供されている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、利用者に快適で暮らしやすい場の提供に配慮した設計の施設である。内部は全体的にゆったりと明るく、共有スペースには鉢植え、利用者の写真、手づくりの飾りなどがあり、家族的で親しみのある雰囲気に満ちている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広さに余裕があり、収容スペースの大きいクロゼット、広い窓、安全な暖房設備など利用者にとって居心地良く、暮らしやすい空間が提供されている。		

※ 　　は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。